

秋の日々



秋は、山をずっと歩いても疲れを感じない程、ハイキングに最適の時期であると思います。寒さの訪れと共に沢山の生き物が姿を見えなくなり、コオロギの最後の寂しげな鳴き声が止んでいく頃の話です。



紅葉の色に染められ、山は美しい絵になります。
(2014年11月5日、盆堀川流域の紅葉のピーク)



悪天候の日は、真冬並みの寒さに襲われ、霧がかかることが多くなります。霧でルート先の山が見えず、さらに落葉した樹木が多いと道がとても分かりづらくなります。
(2015年11月30日、馬頭刈尾根)

風に吹かれ葉っぱが舞い上がります。お昼の時間帯でも、太陽の光は今までに比べて斜めに差し込む事から、溪谷の谷間、山の北側斜面などはすぐに暗い影に飲まれます。

暖かい時はあとわずかです。(2015年11月27日、青木平)



「ゴジュウカラ」あきる野では、秋～早春までに見られる数の少ない鳥ですが、秋は比較的目撃しやすくなります。森を静かに歩いていると、突然鳥の群れが飛来し、双眼鏡で確認すると、「いつも見られる留鳥のコガラ、ヒガラ、ヤマガラ、エナガ・・・ あらっ！いました、ゴジュウカラ」という貴重な出会いがたまにあります。

10月も下旬となりますが、山の葉が色付き始めています。紅葉のピークである11月は、毎年とても楽しみにしています。今年は雨の多い夏でしたが、紅葉にどのような影響があるのでしょうか、そして、どのような秋が訪れるのでしょうか。

(パブロ)



あきりんちゃん



「キタテハ」

秋の涼しげな日々になっても、春や夏と同様に見られる昆虫がいます。この蝶はその中の代表的な種類です。

コナラの森の記録 - 自然を昔に戻す会の活動 -



森林レンジャーが始動した2010年から「自然を昔に戻す会が行う森づくり」の下刈り整備をお手伝いしています。

左の写真は2010年9月整備後。同年3月に自然を昔に戻す会主催の森づくり体験で植樹されたコナラ（モミジも数本植樹）の奥には、針葉樹の森がはっきり見えています。下の写真を見ていくと、年を重ねるごとにコナラがぐんぐん成長し、景色が変わっていく様子わかります。下刈りを始めた頃は、コナラを切らない様に繁茂する草を刈るのが大変でしたが、一昨年辺りから下草も落ち着き、作業も楽(?)になりました。



2011年



2012年



2013年



2016年



2015年



2014年

毎年、7~10月に2回下刈りを実施し、昨年からは「かたらいの路」の水切り作りや草刈り整備も実施しています。枯れてしまった木もありますが、自然に絶対ということはないと再確認しつつ、整備後コナラの森にいますと、森を利用している生物と出会い、柔ら

かい太陽の日差しを受けると清々しい気持ちになります。毎年森の成長や変化が楽しみです。

戻す会の皆さんとの活動は、共に汗を流す楽しさだけでなく、“継続は力なり”ということを実感させてもらえます。



○ コナラの森



石階段を下った所に石碑があります。

戸倉の沢戸橋を渡って東京都の道標がある石階段を下ると、「左五日市みち 右今熊山八王子道」という石碑があります。その先右手に、たくさんの方の手と自然の力で育まれてきたコナラの森があります。更に山へ向かうと、イチョウで有名な広徳寺、小峰公園へ向かう「かたらいの路」が続きます。

これからの紅葉狩りに歩いてみてはいかがでしょうか。(加瀬澤)

石階段の入口に東京都の道標があります。